

電気・情報関係学会九州支部連合大会委員会
平成30年度 第3回大会委員会(引継会議) 議事次第

開催日時: 平成30年11月14日(水) 14:00～16:00

開催場所: 九州産業大学 12号館 3階大会議室

【1】 平成30年度 大会委員長挨拶

【2】 議 題

1. 第2回大会委員会 議事録の確認
2. 平成30年度 大会開催報告
3. 平成30年度 各担当からの報告・引継事項
4. 2019年度 連合大会について
5. その他

資 料

- 1-1 平成30年度 大会委員会議事録
- 2-1 平成30年度 連合大会受付人数集計結果
- 2-2 平成30年度 大会委員会会計中間報告
- 2-3 連合大会講演件数表
- 2-4 セッション毎講演件数表
- 3-1 平成30年度 開催地実行委員会 決算報告
- 3-2 平成30年度 開催地実行委員会 引継事項
- 3-3 平成30年度 大会運営関係 引継事項
- 4-1 2019年度 大会会告(案)
- 4-2 2019年度 連合大会予算(案)
- 4-3 2019年度 連合大会委員会について
- 4-4 2019年度 国際セッション開設提案の募集について
- 5-1 論文集 CD-ROM および国際セッション参加費の検討について
- 5-2 連合大会活性化について



平成30年度 第2回大会委員会・合同会議 出欠状況

※ご出席は○、ご欠席は×を付けています。

委員会名	連合大会役職	所属学会	学会役職	所属先	氏 名	出欠
大 会 委 員 会	大会委員長	情 報 処 理	支 部 長	九 大	富 浦 洋 一	○
	大会副委員長	開 催 地		大 分 大	大 竹 哲 史 ※	／
		日 本 音 響	支 部 長	大 分 大	秋 田 昌 憲	○
	庶 務 幹 事	情 報 処 理	庶 務 幹 事	大 分 高 専	本 田 久 平	○
		日 本 音 響	評 議 員	近 畿 大	勝 瀬 郁 代	×
	会 計 幹 事	情 報 処 理	会 計 幹 事	九 大	山 内 由 紀 子	○
		日 本 音 響	会 計 幹 事	日本文理大	福 島 学	×
	大 会 委 員	電 気	総務企画幹事	九 大	吉 田 敬	○
		電子情報通信	支 部 長	九 大	吉 富 邦 明	○
			庶 務 幹 事	NTTフィールド テクノ	岡 崎 康 敬 (代)	○
		映像情報メディア	庶 務 幹 事	九 産 大	松 岡 剛 志	○
		照 明	幹 事	九 大	中 村 大 輔 ※	／
		電 気 設 備	庶 務 幹 事	九 電 工	山 口 頼 央	○
		I E E E	Secretary	九 大	湯 浅 裕 美	○
開催地実行委員会	開 催 地 実 行 委 員 長			大 分 大	西 野 浩 明	○
	開 催 地 実 行 副 委 員 長			大 分 大	大 竹 哲 史 ※	○
プログラム編集委員会	プ ロ グ ラ ム 編 集 委 員 長			九 大	中 村 大 輔	○
	プ ロ グ ラ ム 編 集 副 委 員 長			九 大	島 田 敬 士	○
次期大会準備委員会	次 期 大 会 副 委 員 長			九 工 大	大 塚 信 也	○
	次 期 開 催 地 実 行 委 員 長			九 工 大	白 土 竜 一 (代)	○
	次 期 開 催 地 実 行 副 委 員 長			九 工 大	小 迫 雅 裕	○
次々期準備委員会	次 々 期 大 会 副 委 員 長			九 産 大	石 田 健 一	○
出席者数						18
欠席者数						2
対象者総数						22

電気・情報関係学会九州支部連合大会委員会
平成30年度第1回大会委員会 議事録

日時:平成30年4月23日(月)14:00～17:00

場所:九州産業大学 12号館3階 大会議室

出席者:富浦(大会委員長:情報処理、九州大)、秋田(大会副委員長:音響、大分大)、本田(庶務幹事:情報処理、大分高専)、勝瀬(庶務幹事:音響、近畿大)、山内(会計幹事、情報処理、九州大)、吉田(大会委員:電気、九州大)、伊東(大会委員:電子情報通信、九州大)、松岡(大会委員:映像情報メディア、九産大)、山口(大会委員:電気設備、九電工)、西野(開催地実行委員長:大分大)、大竹(開催地実行副委員長:大分大)、中村(プログラム編集委員長:九州大)、三谷(次期開催地実行委員長:九工大)、小迫(次期開催地実行副委員長:九工大)、吉富(電子情報通信支部長、九州大)、田中(代)(IEEE、九産大)、梶原(電気設備支部長、福工大)

欠席者:福島(会計幹事:会計幹事、日本文理大)、湯浅(大会委員:IEEE、九州大)、島田(プログラム編集副委員長:九州大)、大塚(次期大会副委員長:九工大)、山科(電気支部長、九電)、藤井(映像情報メディア支部長、NHK 福岡)

配布資料:

- 1-1 平成29年度 大会委員会議事録
- 2-1 平成29年度 大会集計結果
- 2-2 平成29年度 決算報告
- 3-1 大会講演件数一覧表
- 4-1 平成30年度 大会会告
- 4-2 平成30年度 大会日程表
- 4-3 平成30年度 大会委員会年間スケジュール
- 4-4 平成30年度 大会委員会予算
- 4-5 平成30年度 大会委員会名簿
- 5-1 平成30年度 大会参加費・企業協賛料
- 5-2 平成30年度 国際セッションについて
- 5-3 平成30年度 プログラム編集会議セッション担当
- 5-4 平成30年度 若手表彰採点依頼
- 5-5 平成30年度 企業協賛について
- 5-6 自然災害など緊急時の開催決定について
- 6-1 論文 CD-ROM および国際セッション参加費の検討について
- 6-2 平成31年度 大会委員会の選出について
- 7-1 電気・情報関係学会九州支部連合大会委員会運営の覚書
- 7-2 連合大会開催についての申し合わせ

議事:

富浦大会委員長、秋田大会副委員長、西野開催地実行委員長、大竹開催地実行副委員長の御挨拶があった。ご挨拶の中で、今年は直前に福岡工業大学で開催される FIT に発表が流れることが危惧される

ため、宣伝活動をして欲しい旨や、採算ライン500件の達成を目指し、特別講演等で外部の方を招いて魅力的な学会にしたい旨などが語られた。その後、本田庶務幹事の進行にて議事が進められた。

1. 平成29年度 大会委員会議事録の確認

- ・進行より第4回を中心に説明

2. 平成29年度 決算報告

- ・事務局より、平成29年度連合大会受付集計、及び決算報告の説明があった(資料2-1、2-2)。
- ・事業費支出については、懇親会代が予算よりも多くなかったが、支出総額としては予算内に収まった。
- ・運営費支出については、機器故障等想定外のことになり、予算以上の出費となった。
- ・以上のことから、平成29年度全体としては予算内に収まらなかった。
- ・運営覚書(資料7-1)に従い、主当番3学会により欠損金が拠出されたとの説明があった。

3. 平成29年度 開催報告

事務局より講演件数の推移について説明があった。

4. 平成30年度 大会委員会について

- ・進行より、講演申し込み時の会員資格について、昨年度からの変更点について説明があった(資料4-1)。
- ・進行および事務局より、連合大会の主な日程、連合大会準備スケジュール、大会運営日程表について、説明があった(資料4-2)。前回会議では予定とされていたプログラム編集会議が7月20日で確定したこと、9月19日よりWebから論文閲覧が可能となること、第2回大会委員会は大会中に開催され、交通費の支給はないことが報告された。

5. 平成30年度 連合大会運営について

5-1. 大会委員会予算

事務局より、平成30年度大会委員会予算について説明があった(資料4-4)。

- ・収入—1.分担金等収入における主当番学会分担金は、今年は、1学会につき、576,000円。主当番学会の分担金額は毎年変わる。
- ・支出—1.事業費—1.システム費—委託費は、現在83,000円となっているが、J-stage側の改変の影響があり、J-stage掲載データ作成費がプラス10～15万円かかる予定。
- ・支出—2.大会開催費—賃貸料は、大分大学が協賛のため、ゼロになる予定。
- ・支出—2.大会開催費—会議費の懇親会代は、大学食堂利用のため、抑え目になっている。
- ・支出—1.事業費—0.講演会費の特別講演は、現在、56,000円となっているが、東京から講師を招くため、旅費(交通費と宿泊費)として、プラス7～8万円の追加を願いたい旨、開催地実行委員長より願い出があり、了承された。講師は、ワトソン開発者である日本IBMの村上明子先生を招聘予定。また合わせて、講師の都合により特別講演が2日目になる可能性があり、この場合第2回大会委員会は1日目に

なると説明がなされた。

5-2. 大会サイト

入会手続き中の講演申し込みに関して、大会サイトの改訂内容について、事務局より説明があった。

- 用語を「講演申込締切日」に統一した方がよいという指摘があり、修正することになった。
- 幹事に対し、大会サイトのテストの依頼があった。

5-3. 国際セッション

国際セッションについて、事務局より説明があった。

- 国際セッションの担当者が決定した(資料5-2)。
- 国際セッションの招待講演の謝礼金は12万円を上限とし、希望されるセッションで按分しているとの説明があった。
- 各学会担当セッション一覧表(資料5-3)の説明があった。セッション担当学会は、プログラム編集会議での担当学会である。また、②の学会は、①の学会で座長の公認がでない場合に、②の学会にお願いすることになる。

5-4. 若手発表者表彰制度について(資料5-4)

表彰用紙は受付で座長に配布すること、表彰対象は会員限定であることが説明された。

5-5. 企業協賛について(資料5-5)

協賛申し込み状況は、資料の4社に加えて2社決定している。協賛依頼は、大分の2団体からいただいた企業リストと各学会から提供された送付先に送付している。

6. 審議事項(資料6-1)

6-1. 論文集 CD-ROM の廃止について

- 廃止の方向で進める。
- 現在、J-stageでの公開は1年後に設定されているが、1年後にJ-stageで公開していたのはCD-ROMを買ってもらったためだった。よってJ-stageの公開をなるべく早くする(レンタルサーバーはこれまでも10月まで借りていたので引き続き10月まで借りる)。講演者にはJ-stage公開時期が早まることを周知する。
- CD-ROMの広告がなくなるため、東海支部連合大会のように、大会サイトトップページ上に協賛企業のバナーを載せることを検討する。
- 当日参加者には共通のIDとパスワードを用意して配布する。
- CD-ROMがなくなった分、参加費を安くできないか、という意見があった。
- 資料には日本音響学会からの回答の記載が抜けており、追記することになった。
- この件について各学会で審議を行った場合は、第2回会議までに事務局にその結果を知らせる。

6-2. 国際セッション参加費について

- これまでに得られている各学会からの回答について、説明があった。
- この件について各学会で審議を行った結果は、第2回会議までに事務局に知らせる。

これらの審議事項については9月に経緯を報告。幹事会を経て、11月に採決をとることになる。

7. その他

- 改元が予定されているので、来年は元号ではなく、西暦表示に変える。
- 講演者数減少傾向に対処するため、活動活性化のための取り組みも必要。今年度、特別講演者に著名な研究者を招聘するにあたり、その効果を検証すべく、アンケート調査等を計画。

その他、大会委員長より、連合大会の役割について、長期的な観点から、幹事会などで話し合っておいてはどうか、との提言があった。

文責 庶務幹事 勝瀬

電気・情報関係学会九州支部連合大会委員会 平成30年度第2回大会委員会 議事録

日時:平成30年9月27日(木)12:20~13:30

場所:大分大学理工学部 1号館2階 第2会議室

出席者:富浦(大会委員長:情報処理、九州大)、秋田(大会副委員長:音響、大分大)、本田(庶務幹事:情報処理、大分高専)、勝瀬(庶務幹事:音響、近畿大)、山内(会計幹事、情報処理、九州大)、吉田(大会委員:電気、九州大)、西野(開催地実行委員長:大分大)、大竹(開催地実行副委員長:大分大)、中村(プログラム編集委員長:九州大)、大塚(次期大会副委員長:九工大)、小迫(次期開催地実行副委員長:九工大)

欠席者:福島(会計幹事:会計幹事、日本文理大)、伊東(大会委員:電子情報通信、九州大)、松岡(大会委員:映像情報メディア、九産大)、山口(大会委員:電気設備、九電工)、湯浅(大会委員:IEEE、九州大)、島田(プログラム編集副委員長:九州大)、三谷(次期開催地実行委員長:九工大)

配布資料:

- 1-1 平成30年度 第1回大会委員・合同会議議事録
- 2-1 平成30年度 連合大会の現況報告
- 2-2 平成30年度 連合大会会計中間報告(9/24時点)
- 2-3 協賛について
- 2-4 連合大会後援件数表
- 3-1 論文集 CD-ROM および国際セッション参加費の検討について
- 3-2 平成30年度 2019年度 連合大会委員選出について

議事:

富浦大会委員長、西野開催地実行委員長の御挨拶

があった。ご挨拶の中で、近づきつつある台風の影響を受けないで済んだが、自然災害発生時の対応を予め考えておくべきであること、直前に FIT が開催されたこともあり、参加者数は満足のいくものにはならなかったこと、今後の大会運営について幹事会で話し合うことなどが語られた。その後、本田庶務幹事の進行にて議事が進められた。

1. 平成30年度 第1回大会委員会・合同会議議事録の確認

- ・進行より説明(資料1-1)。

2. 連合大会の現況報告

- ・事務局より、平成30年度連合大会の現況報告と会計中間報告の説明があった(資料2-1、2-2)。
- ・講演件数425件
- ・今回は「聴講のみ」の学生数が少なかった。
- ・今回は大分大学が協賛だったため、会場代がかかっていないが、それでも収支は損得なしやや赤字になりそうである。来年度以降、同様の収支で会場代がかかるとなると赤字が予想される。採算ラインを500件として予算立てをしていたが、来年度以降は450件程度で予算を立てるべきではないか。これについては、次回の大会委員会では決算予測を出せるので、第3回大会委員会で予算案を諮りたい。

3. 企業協賛について

- ・事務局より説明(資料2-3)。
- ・協賛収入は増額したが、件数は減った。
- ・次期開催地実行副委員長より、募集方法について質問があり、事務局より、開催地が地元関連企業に直接呼びかけて募集するのがもっとも効果的である旨の回答があった。
- ・一方で、開催地実行委員長より、就職担当でもあったので、多くの企業に声かけをしたが、反応はいまひとつだったとの報告があった。
- ・企業講演は、発表に至るまでの企業内部の処理が意外と大変なこと、リクルート目的には9月という開催時期は合わないことなどが報告された。
- ・企業に対し、費用対効果を明確に示せなければ厳しいのではないか、企業にとっても学会への参加や運営に関わることにに対してメリットがなければ、参加企業数が減って当然であろうとの意見があった。

4. 講演件数・参加者の推移について

- ・事務局より説明(資料2-4)。

5. 論文集CD-ROMおよび国際セッション参加費の検討について

- ・進行より説明(資料3-1)。
- ・CD-ROMについてはおおそ廃止の方向で各学会の意見は一致している。
- ・国際セッション参加費についてはまだ意見が一致し

ていないので、第3回大会委員会の前に、各学会の幹事会に対し、各学会から出ている意見を伝え、そのうえでもう一度意見を確認しておくことになった。

6. 2019年度大会委員会選出について

- ・事務局より説明(資料3-2)

7. その他

- ・次回の大会委員会は11月14日(水)に決定した。

文責 庶務幹事 勝瀬

平成30年度連合大会集計状況

	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23
参加者総数	606	701	627	765	853	948	858	822
講演登録件数(*下記含む)	425	481	404	498	536	558	576	589
*招待講演	1	2	2	2	1	1	1	1
*企業講演	2	1	2	3	7	3	0	1
(内、講演キャンセル数)	(9)	(4)	(6)	(4)	(4)	(0)	(4)	(6)
聴講者数(*下記含む)	181	220	223	267	317	390	282	233
*事前登録聴講者数	86	147	107	136	181	242	101	96
*当日登録聴講者数	95	73	116	131	136	148	181	137

①事前登録分

	件数	金額
講演(会員)	341	¥ 1,364,000
講演(非会員)	81	¥ 648,000
聴講[会員][座長]	66	¥ 198,000
聴講[学生・聴講のみ]	20	¥ -
聴講[学生・CDROM付]	0	¥ -
聴講[非会員]	0	¥ -
追加CD-ROM	0	¥ -
CD-ROMのみ[不参加]	1	¥ 4,000
小計	509	¥ 2,214,000

※事前登録済み2件が当日払いのため当日登録に移動

②当日登録分		2日分		9月27日		9月28日	
		合計件数	合計金額	件数	金額	件数	金額
聴講[会員]	¥4,000	40	160,000	30	120,000	10	¥40,000
聴講[学生]	¥1,000	20	20,000	10	10,000	10	¥10,000
聴講[非会員]	¥6,000	1	6,000	1	6,000	0	¥0
聴講[座長]	¥3,000	34	102,000	26	78,000	8	¥24,000
追加CD-ROM	¥2,000	0	0	0	0	0	¥0
過入金			3,000		3,000		¥0
不足金			0		0		¥0
小計		95	291,000	67	217,000	28	74,000

③大会終了後

CD-ROMのみ[不参加]	¥4,000	2	¥ 8,000
---------------	--------	---	---------

合計①+②+③	606	¥2,513,000
---------	-----	------------

<大会当日報告>	
引換証未配達	0
引換証忘れ	70
不足・未入金	18
後払い	1
過入金(返還済み)	13

懇親会参加者				
	事前登録	当日登録	合計	金額
一般	23	9	32	¥ 105,000
学生・家族	68	1	69	¥ 70,000
開催地実行委員・企業協賛	14	0	14	¥ 42,000
合計	105	10	115	¥ 217,000

所属学会別 参加者数(事前登録分)				
	総計	講演	聴講[会員]	聴講[学生]
1 電気学会	194	156	36	2
2 情報処理学会	28	24	4	0
3 電子情報通信学会	131	108	22	1
4 照明学会	1	1	0	0
5 日本音響学会	9	7	2	0
6 映像情報メディア学会	1	1	0	0
7 電気設備学会	0	0	0	0
8 IEEE	41	37	4	0
9 なし	23	7	0	16
非会員	81	81	0	0
合計	509	422	68	19

平成30年度電気・情報関係学会九州支部連合大会委員会中間報告

収 入			支 出		
項 目	予算額	決算額	項 目	予算額	決算額
1.分担金等収入			1.事業費		
50.分担金収入	1,978,000	1,978,000	0.講演会費	181,000	235,332
2.事業収入			1.システム費		
51.講演申込収入	2,400,000	2,012,000	2.大会開催費	1,775,000	1,502,383
52.聴講申込収入	612,000	486,000	事 業 費 小 計	3,570,000	3,174,967
53.論文集販売収入	12,000	4,000	2.運営費		
54.懇親会収入	190,000	217,000	3.大会委員会費	256,000	46,330
55.協賛収入	478,000	140,000	4.プログラム会議費	30,000	23,372
事業収入小計	3,692,000	2,859,000	5.幹事会費	-	-
2.雑収入			6.開催地実行委員会費	4,000	-
56.著作権分配金	50,000	-	7.事務費	417,000	81,790
57.補助金収益	-	-	8.事務委託費	1,444,000	841,890
58.財産運用益	1,000	5	9.租税公課	-	-
59.雑収入	-	4,000	10.雑支出	-	-
雑収入額	51,000	4,005	運営費小計	2,151,000	993,382
総収入額	5,721,000	4,841,005	総支出額	5,721,000	4,168,349

平成29年度決算(参考)

収 入		支 出	
項 目	予算額	項 目	決算額
1.分担金等収入		1.事業費	
50.分担金収入	1,615,169	0.講演会費	125,658
2.事業収入		1.システム費	1,570,042
51.講演申込収入	2,589,000	2.大会開催費	1,769,145
52.聴講申込収入	621,000	事業費小計	3,464,845
53.論文集販売収入	22,000	2.運営費	
54.懇親会収入	411,000	3.大会委員会費	299,144
55.協賛収入	307,500	4.プログラム会議費	30,318
事業収入小計	3,950,500	5.幹事会費	-
2.雑収入		6.開催地実行委員会費	6,012
56.著作権分配金	88,669	7.事務費	468,784
57.補助金収益	55,000	8.事務委託費	1,443,240
58.財産運用益	5	9.租税公課	-
59.雑収入	3,000	10.雑支出	-
雑収入額	146,674	運営費小計	2,247,498
総収入額	5,712,343	総支出額	5,712,343

平成30年度電気・情報関係学会九州支部連合大会委員会 会計中間報告 (11/14現在)

収 入			支 出		
項 目	予 算 額	決 算 額	項 目	予 算 額	決 算 額
1.分担金等収入					
50.分担金収入			1.事業費		
主当審学会 分担金	¥576,000 × 3 学会	1,728,000	講師金	124,000	100,527
副当審学会 分担金	¥50,000 × 5 学会	250,000	特別講演 講師1名 × 5万円(源泉+復興特別所得税10.21%含む)	56,000	55,665
分 担 金 収 入 小 計		1,978,000	特別講演 講師旅費	-	78,580
2.事業収入			振込手数料 (源泉徴収支払分)	1,000	540
51.講演申収入			講演金費計	181,000	235,332
講演申込(会員)	¥4,000 × 341 件	1,604,000	委託費	924,000	841,276
講演申込(非会員)	¥8,000 × 81 件	800,000	印刷製本費	83,000	82,426
講演収入計		2,404,000	論文集CD-ROM、プログラム冊子、引換券、封筒	534,000	451,602
52.聴講申込収入			論文集CD-ROM、プログラムの冊子、送料	22,000	23,220
主催学会会員(座長含む)	¥3,000 × 66 件	270,000	講演、聴講事前登録者への郵送料 (82円 × 469件)	50,000	38,458
学生(聴講のみ)	¥0 × 20 件	-	振込手数料	1,000	270
学生(CDROM有り)	¥2,000 × 0 件	2,000	システム費計	1,614,000	1,437,252
非会員	¥5,000 × 0 件	5,000	大会会場借料	400,000	-
事前聴講申込計		277,000	その他(懇親会会場など)	100,000	-
主催学会会員	¥4,000 × 40 件	200,000	賃借料小計	500,000	-
学生	¥1,000 × 20 件	150,000	大会運営本部昼食費(開催地実行委員、会場アルバイト、大会関係者)	60,000	57,974
非会員	¥6,000 × 1 件	30,000	大会休閑室茶菓代	12,000	669
座長(事前登録済み未払い2件含む)	¥3,000 × 34 件	90,000	懇親会代	300,000	512,000
当日聴講申込計		335,000	会 議 費 小 計	372,000	570,643
聴講申込計		612,000	大会運営関連の宅急便送料	23,000	7,628
53.論文集販売収入			協賛依頼送料、企業協賛請求書送料	10,000	14,227
(追加CDROM)大会参加	¥2,000 × 0 件	4,000	大会会告およびポスター・送付	8,000	2,952
(CDROMのみ)大会不参加	¥4,000 × 1 件	8,000	論文集CDROMのみ 発送料	1,000	-
論文集販売計		12,000	その他	2,000	2,092
大会参加収入計		3,024,000	大会ポスター	44,000	26,899
54.懇親会収入			参加章	11,000	6,445
事前申込 一般	¥3,000 × 37 件	90,000	その他(会場案内図など)	2,000	1,535
事前申込 同伴家族・学生	¥1,000 × 68 件	40,000	印刷製本費小計	20,000	2,900
当日申込 一般	¥4,000 × 9 件	40,000	会場雑費・消耗品代 (参加章用 名札含む)	101,000	20,183
当日申込 同伴家族・学生	¥2,000 × 1 件	20,000	その他	7,000	-
懇親会収入計		190,000	消耗什器備品費	108,000	20,183
広告 1頁(指定有り)	¥55,000 × 1 件	165,000	会場アルバイト代	606,000	744,000
広告 1頁(指定無し)	¥50,000 × 件	50,000	その他(大会ポスター・デザイン料等)	56,000	50,116
広告 1/2頁	¥25,000 × 2 件	125,000	臨時雇用	662,000	794,116
広告 1/4頁(縦・横)	¥12,500 × 件	38,000	旅費交通費	44,000	59,954
展示 コマB(電源無し)	¥5,000 × 件	-	傷害保険加入費(損保ジャパン日本興亜 800名/日 × 2日間)	20,000	16,490
展示 コマB(電源有り)	¥10,000 × 1 件	10,000	雑費	5,000	3,218
協賛 1口(5,000円)	¥5,000 × 5 口	90,000	支払手数料	-	-
協賛収入計		478,000	大会開催費計	1,775,000	1,502,383
事業収入小計		3,692,000	事業費小計	3,570,000	3,174,967
2.雑収入					
56.著作権分配金	学術著作権分配金	50,000	会議費	-	-
57.補助金収益	助成金	-	旅費交通費	20,000	16,894
58.財産運用益	銀行利息	1,000	委員、各学会支部長、事務局旅費	233,000	28,060
59.雑収入	雑収入額	-	支払手数料	3,000	1,376
雑収入額		51,000	大会委員金費計	256,000	46,330
残 金					
			会議費	1,000	609
			臨時雇用	21,000	21,000
			消耗什器備品費	2,000	423
			旅費交通費	6,000	1,340
			プログラム会議費費計	30,000	23,372
			会議費	-	-
			茶菓代	-	-
			幹事会費計	-	-
			会議費	1,000	-
			旅費交通費	2,000	-
			委員、事務局旅費 (福岡⇄九大 1回)	1,000	-
			支払手数料	-	-
			開催地実行委員会費	4,000	-
			消耗什器備品費	-	-
			印刷製本費	311,000	-
			封筒、名刺など	10,000	-
			事務局旅費	1,000	-
			銀行振込手数料	2,000	1,398
			支払手数料	7,000	1,640
			郵送料、メール便、宅急便・宅配便 送料	4,000	3,067
			通信運搬費	82,000	75,685
			事務局専用携帯代(4月分~10月分)	417,000	81,790
			事務費計	817,000	840,000
			委託費	1,440,000	1,890
			支払手数料	4,000	841,890
			租税公課	-	-
			雑支出	-	-
			運営費小計	2,151,000	983,382
			総 支 出 額	5,721,000	4,168,349
			総 収 入 額	5,721,000	4,841,005

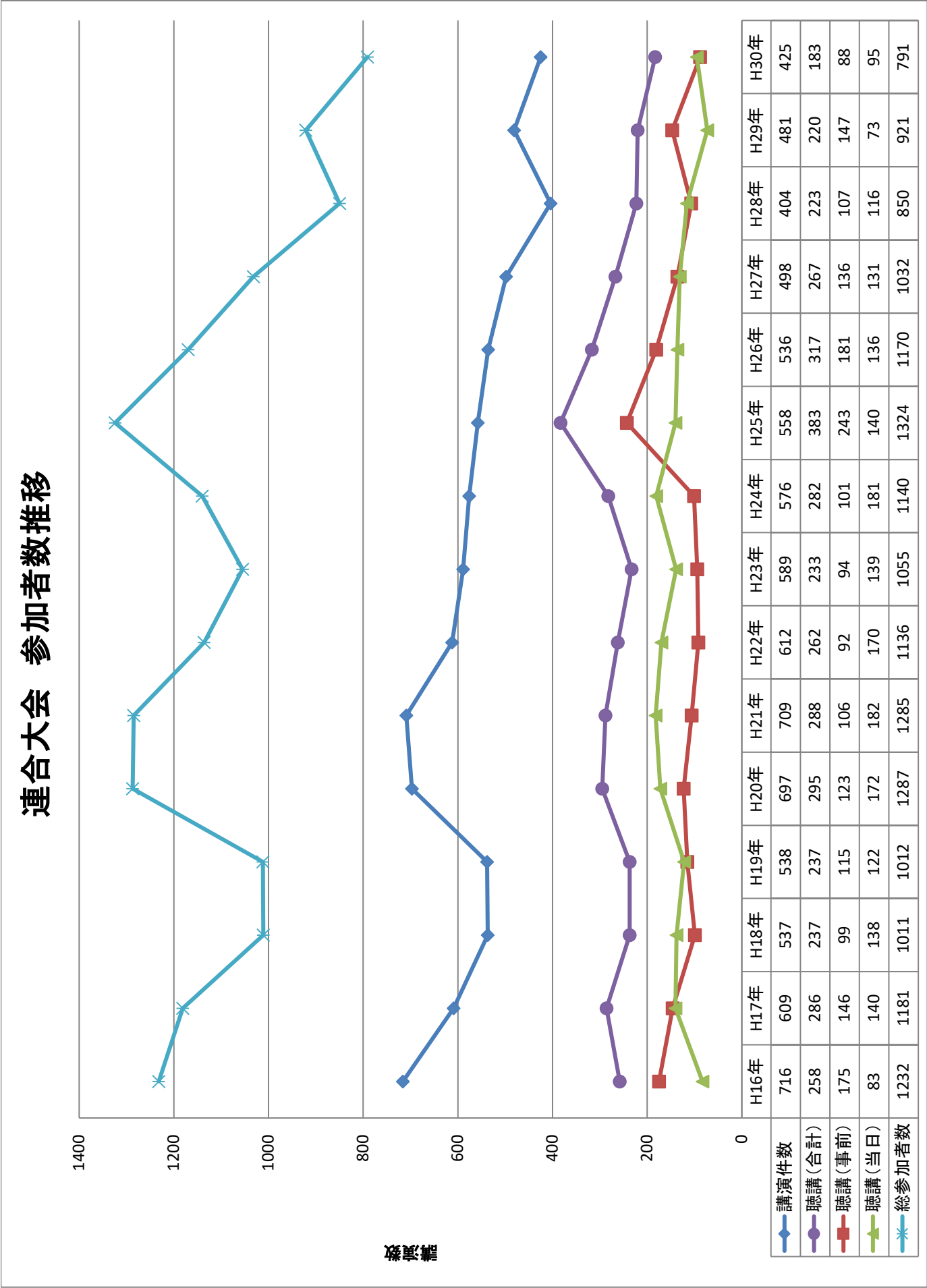
平成30年度電気・情報関係学会九州支部連合大会委員会 決算予測

収 入			支 出		
項 目	予 算 額	決 算 額	項 目	予 算 額	決 算 額
1.分担金等収入			1.事業費		
50.分担金収入			諸謝金	124,000	100,527
主当審学会 分担金	¥576,000 × 3 学会	1,728,000	特別講演 講師1名 × 5万円(源泉+復興特別所得税20.42%含む)	56,000	55,665
副当審学会 分担金	¥50,000 × 5 学会	250,000	特別講演 講師旅費	-	78,580
分 担 金 収 入 小 計	1,978,000	1,978,000	振込手数料(諸費徴収支払分)	1,000	540
2.事業収入			サーバ・寄付・登録	181,000	235,332
51.講演申収入			2017年度大会J-stages掲載データ作成、アップロード(417 × @ 60円+税)	924,000	841,276
講演申込(会員)	¥4,000 × 341 件	1,600,000	論文集CD-ROM、プログラム冊子、引換券、封筒	83,000	82,426
講演申込(非会員)	¥8,000 × 81 件	800,000	論文集CD-ROM、プログラム冊子、送料	534,000	451,602
講演収入計	2,400,000	2,012,000	講演、聴講事前登録者への郵送費(82円 × 469件)	22,000	23,220
52.聴講申込収入			振込手数料	50,000	38,458
主催学会会員(座長含む)	¥3,000 × 66 件	270,000	振込手数料	1,000	270
学生(聴講のみ)	¥0 × 20 件	-	システム費	1,614,000	1,437,252
学生(GDROM有り)	¥2,000 × 0 件	2,000	大会会場借料	400,000	-
非会員	¥5,000 × 0 件	5,000	その他(懇親会会場など)	100,000	-
事前聴講申込計	277,000	198,000	賃借料小計	500,000	-
主催学会会員	¥4,000 × 40 件	200,000	実借料小計	60,000	57,974
学生	¥1,000 × 20 件	15,000	大会運営本部昼食費(開催地実行委員、会場アルバイト、大会関係者)	12,000	669
非会員	¥6,000 × 1 件	30,000	大会休閑室茶菓代	300,000	512,000
座長(事前登録済み未払い2件含む)	¥3,000 × 34 件	90,000	懇親会代	372,000	570,643
当日聴講申込計	335,000	288,000	大会運営関連の宅急便送料	23,000	7,628
聴講申込計	612,000	486,000	協賛依頼送料、企業協賛請求書送料	10,000	14,227
(追加GDROM)大会参加	¥2,000 × 0 件	4,000	大会会告およびポスター・送付	8,000	2,952
(GDROMのみ)大会不参加	¥4,000 × 2 件	8,000	論文集CD-ROMのみ、講演取消者 論文集発送送料	1,000	902
論文集販売計	12,000	8,000	その他	2,000	2,092
大会参加収入計	3,024,000	2,506,000	大会ポスター	44,000	27,801
事前申込 一般	¥3,000 × 37 件	90,000	参加章	11,000	6,445
事前申込 同伴家族・学生	¥1,000 × 68 件	40,000	その他(会場案内図など)	7,000	1,535
当日申込 一般	¥4,000 × 9 件	20,000	印刷製本費小計	20,000	2,900
当日申込 同伴家族・学生	¥2,000 × 1 件	20,000	会場雑費・消耗品代(参加章用 名札含む)	101,000	20,183
聴講金収入計	190,000	217,000	その他	7,000	-
広告 1頁(指定有り)	¥55,000 × 2 件	165,000	会場アルバイト代	108,000	20,183
広告 1/2頁(指定無し)	¥50,000 × 1 件	50,000	その他(大会ポスター・デザイン料等)	606,000	744,000
広告 1/4頁(縦・横)	¥25,000 × 5 件	125,000	消耗什器備品費小計	56,000	50,116
展示 コマ(電源無し)	¥12,500 × 2 件	38,000	臨時雇用	662,000	794,116
展示 コマB(電源有り)	¥5,000 × 0 件	-	旅費交通費	44,000	59,954
協賛 コマB(電源有り)	¥10,000 × 1 件	10,000	傷害保険加入費(損保ジャパン日本興亜 800名/日 × 2日間)	20,000	16,490
協賛 (1口5,000円)	¥5,000 × 6 口	30,000	雑費	5,000	3,046
協賛収入計	478,000	350,000	支払手数料	1,775,000	1,503,113
事業収入小計	3,692,000	3,073,000	大会開催費計	3,570,000	3,175,697
2.雑収入			事業費小計	3,570,000	3,175,697
56.著作権分配金			会議費	20,000	21,694
学術著作権分配金		50,000	旅費交通費	233,000	84,180
助成金	-	-	支払手数料	3,000	3,096
58.財産運用益			振込手数料	256,000	108,970
銀行利息	1,000	5	大会委員金費	1,000	609
雑収入額	-	4,000	臨時雇用	21,000	21,000
雑収入小計	51,000	54,005	消耗什器備品費	2,000	423
主当審学会 分担金精算			旅費交通費	6,000	1,340
収 入	¥5,105,005		会議費	30,000	23,372
支 出	¥4,877,793		茶菓代	-	-
剰余金(収入-支出)	¥227,212		茶菓代	-	-
①剰余金按分額	¥75,737.33		茶菓代	-	-
電子情報通信学会	¥75,737		会議費	1,000	1,500
電気学会	¥75,737		旅費交通費	2,000	1,500
情報処理学会	¥75,738		支払手数料	4,000	1,500
合 計	¥227,212		消耗什器備品費	311,000	-
②分担金一時金	¥576,000		印刷製本費	10,000	-
③確定分担金額 ②-①			旅費交通費	1,000	-
電子情報通信学会	¥500,263		支払手数料	2,000	1,398
電気学会	¥500,263		銀行振込手数料	7,000	7,396
情報処理学会	¥500,262		郵送料、メール便、宅急便・宅配便 送料	4,000	3,067
			トメイン更新料(1年分)	82,000	113,153
			事務局専用携帯代(4月分~10月分)	417,000	125,014
			事務費計	1,440,000	1,440,000
			委託費	4,000	3,240
			支払手数料	1,444,000	1,443,240
			租税公課	-	-
			雑支出	-	-
			雑支出	-	-
総 収 入 額	5,721,000	5,105,005	運営費小計	2,151,000	1,702,096
総 支 出 額			総 支 出 額	5,721,000	4,877,793

電気・情報関係学会九州支部連合大会 講演件数表

開催年度	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	2019年	2020年
開催回数	64回	65回	66回	67回	68回	69回	70回	71回	72回	73回
主当番学会	電子情報通信	情報処理	電気	電子情報通信	情報処理	電気	電子情報通信	情報処理	電気	電子情報通信
副当番学会	照明	電気設備	日本音響	IEEE Fukuoka Section	映像情報メディア	照明	電気設備	日本音響	IEEE Fukuoka Section	映像情報メディア
大会会場	佐賀大学	長崎大学	熊本大学	鹿児島大学	福岡大学	宮崎大学	琉球大学	大分大学	九州工業大学(戸畑)	九州産業大学
大会期日	9/26(月)・27(火)	9/24(月)・25(火)	9/24(火)・26(水)	9/18(木)・19(金)	9/26(土)・27(日)	9/26(土)・30(金)	9/27(水)・28(木)	9/27(木)・28(金)	9/27(金)・28(土)	
総参加者数	822	858	941	853	901	627	701	606		
講演件数	589	576	558	536	498	404	481	425		
一般講演登録(会員)	587	575	554	379	312	267	309	341		
一般講演登録(非会員)				149	181	133	169	81		
招待講演	1	1	1	1	2	2	2	1		
企業講演	1	0	3	7	3	2	1	2		
講演取消	(6)	(6)	(6)	(4)	(4)	(6)	(4)	(9)		
聴講件数	233	282	383	317	403	223	220	181		
聴講(事前)	94	101	243	181	267	107	147	86		
聴講(当日)	139	181	140	136	136	116	73	95		
企業協賛(展示/講演)	15(広10/展3・講1)	19(広14/展7・講0)	34(広16/展9・講3)	40(広22/展18・講7)	40(広14/展6・講3)	18(広12/展9・講2)	12(広9/展3・講1)	14(広10/展1/協4・講2)		
会場数	13	12	11	14	15	13	14	13		
Web申込み・投稿開始	6/20(月)	6/18(月)	6/17(月)	6/16(月)	6/15(月)	6/13(月)	6/12(月)	6/11(月)		
講演申込期限	7/19(水)	7/17(火)	7/16(火)	7/15(火)	7/13(月)	7/15(金)	7/10(月)	7/10(火)		
論文原稿投稿期限	8/17(水)	8/16(木)	8/6(火)	8/1(金)	8/5(水)	8/10(水)	8/10(木)	8/13(月)		
聴講事前申込期限	8/17(水)	8/16(木)	8/16(金)	8/15(金)	8/7(金)	8/12(金)	8/15(火)	8/16(木)		
プログラムのWeb公開	7/30(土)	9/14(金)	7/26(金)	7/29(火)	8/21(金)	8/29(月)	9/1(金)	7/23(月)		
公知日	9/16(金)	9/14(金)	9/13(金)	9/11(木)	9/10(木)	9/21(水)	9/19(火)	9/19(水)		
講演申込	¥4,000	¥4,000	¥4,000	会員¥4,000/非会員¥8,000	会員¥4,000/非会員¥8,000	会員¥4,000/非会員¥8,000	会員¥4,000/非会員¥8,000	会員¥4,000/非会員¥8,000		
事前聴講申込(会員・学生・非会員)	¥3,000・(論文無¥0/論文有¥1,000)・¥4,000	¥3,000・(論文無¥0/論文有¥1,000)・¥4,000	¥3,000・(論文無¥0/論文有¥2,000)・¥5,000	¥3,000・(論文無¥0/論文有¥1,000)・¥5,000	¥3,000・(論文無¥0/論文有¥1,000)・¥5,000	¥3,000・(論文無¥0/論文有¥1,000)・¥5,000	¥3,000・(論文無¥0/論文有¥1,000)・¥5,000	¥3,000・(論文無¥0/論文有¥1,000)・¥5,000		
当日聴講申込(会員・学生・非会員)	¥4,000・¥2,000・¥6,000	¥4,000・(論文無¥0/論文有¥2,000)・¥6,000	¥4,000・(論文無¥1,000/論文有¥2,000)・¥6,000	¥4,000・(論文無¥1,000/論文有¥2,000)・¥6,000	¥4,000・(論文無¥1,000/論文有¥2,000)・¥6,000	¥4,000・(論文無¥1,000/論文有¥2,000)・¥6,000	¥4,000・(論文無¥1,000/論文有¥2,000)・¥6,000	¥3,000・(論文無¥0/論文有¥1,000)・¥5,000		
追加CD-ROM販売	追加¥2,000/不参加委員¥3,000 団体¥4,000									
懇親会参加費(一般/学生・家族)	¥2,000・¥1,500	¥5,000・¥4,000	当日¥3,000・¥2,000	事前¥2,500・¥1,500 当日¥3,500・¥2,500	事前¥3,000・¥2,000 当日¥4,000・¥3,000	事前¥4,000・¥2,000 当日¥5,000・¥3,000	事前¥4,000・¥2,000 当日¥5,000・¥3,000	事前¥3,000・¥1,000 当日¥4,000・¥2,000		
第1回大会委員会合同会議	5/13(金)	5/18(金)	5/24(金)	5/21(水)	5/27(水)	5/31(火)	5/25(木)	4/23(月)		
第2回大会委員会	9/26(月)	9/24(月)	9/25(水)	9/18(木)	9/26(土)	9/30(金)	9/28(木)	9/28(金)		
第3回大会委員会	11/21(月)	11/15(木)	10/30(水)	11/17(月)	11/2(月)	11/15(火)	11/13(月)	11/14(水)		
第4回大会委員会	12/12(月)	3/7(木)	3/4(火)	2/20(金)	3/2(水)	2/22(水)				
第1回幹事会		4/26(木)	4/18(木)	4/17(木)	H26/12/10(水)	H27/12/9(水)	H28/12/8(木)	9/28(金)		
第2回幹事会		1/18(金)	12/7(火)	12/17(火)						
WEB会告	4/18(月)	4/5(木)	3/26(火)	3/26(水)	3/24(火)	3/29(火)	3/27(月)	4/3(火)		
編集委員会	7/27(水)	7/24(火)	7/24(水)	7/24(木)	7/22(水)	7/25(月)	7/19(水)	7/20(金)		

※一般講演登録は講演取消分を含む登録実数 ※講演件数は一般講演登録十招待講演十企業講演



セッション申込件数表(部門順)

部門	部門名	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	平均	
1	理論・回路理論	16	14	19	19	15	15	14	8	7	3	6	4	7	11.3	
2	放電・プラズマ・高電圧・パルスパワー	36	51	61	69	61	58	57	75	52	58	49	75	51	58.5	
	放電・高電圧・静電気・パルスパワー	29	36	42	56	55	44	39	67	46	41	47			45.6	
	プラズマ理工学	7	15	19	13	6	14	18	8	6	17	2			11.4	
3	電気電子材料	12	15	23	31	36	25	25	32	27	25	28	17	8	23.4	
4	マグネティックス	43	25	39	39	37	34	39	44	37	36	16	26	29	34.2	
5	電気機器(＋旧照明)	32	20	27	12	10	15	16	9	9	11	10	5	6	14.0	
	電気機器	30	19	25	12	10	15	15	8						16.8	
	照明	2	1	2	0	0	0	1	1						0.9	
6	パワーエレクトロニクス	33	30	34	30	29	31	37	25	27	30	28	43	31	31.4	
7	リニアモータ・磁気浮上および電気鉄道	11	8	13	9	16	9	9	10	15	7	3	3	4	9.0	
8	電力技術・エネルギー(＋旧エネルギー・環境)	18	30	43	52	39	35	38	37	28	28	30	39	28	34.2	
	電力技術・エネルギー供給システム	18	7	16	23	19	21	19	15						17.3	
	エネルギー・環境		23	27	29	20	14	19	22						22.0	
9	音響・音声	18	16	19	19	28	17	16	18	18	20	6	11	17	17.2	
10	電磁波・アンテナ	19	15	28	20	25	13	21	21	20	25	12	9	16	18.8	
11	光および量子エレクトロニクス	11	5	12	14	11	8	10	9	11	18	12	14	7	10.9	
12	半導体・電子デバイス	15	9	9	17	13	24	16	9	5	3	9	9	5	11.0	
13	電子回路	34	40	40	45	37	48	46	31	29	32	20	14	17	33.3	
14	テレビジョン・画像	21	21	36	35	14	21	16	11	19	9	15	10	10	18.3	
15	情報通信	15	33	33	33	30	26	24	38	43	27	22	9	11	26.5	
16	計測	16	31	30	27	18	22	22	17	12	10	16	15	11	19.0	
17	制御	10	9	24	14	10	9	5	4	4	9	7	5	9	9.2	
18	生体工学	31	24	41	34	30	28	22	24	29	22	19	26	32	27.8	
19	情報基礎論	18	16	10	13	8	4	14	11	8	5	6	3	3	9.2	
20	計算機ハードウェア・ソフトウェア	37	31	30	29	23	27	24	16	11	12	11	16	10	22.3	
	計算機ハードウェア	8	8	7	5	0	4	3	3	2	2				4.2	
	計算機ソフトウェア	29	23	23	24	23	23	21	13	9	10				19.8	
21	パターン理解	26	27	32	31	21	29	32	21	29	21	21	19	16	25.0	
22	計算機応用	26	29	50	46	46	39	30	31	26	19	14	20	18	30.3	
23	人工知能(＋旧自然言語処理)	23	13	21	30	20	13	14	11	21	25	11	17	15	18.0	
	人工知能	20	10	17	24	16	13	13	10						15.4	
	自然言語処理	3	3	4	6	4	0	1	1						2.8	
24	教育									10	12	8	3	8	4	8.2
25	国際セッション(電磁波・アンテナ)	10	9	7	18	10	20	13	17	16	22	17	16	14	14.5	
26	国際セッション(計算機科学・情報技術)	7	13	14	19	20	14	11	12	10	8	4	11	22	12.7	
27	国際セッション(フォトニクス)		7	9	6	3	5	3	1	3	0	5	3	9	4.5	
28	国際セッション(電気エネルギーシステム工学)												19	10	19.0	

※数値は講演申込締め切り直後のもの(変更移動前)

※H18の国際セッションはアジアセッションとして2セッション開催

※国際セッション(フォトニクス)はH25から。H24までは(光・量子エレクトロニクス)

※放電・高電圧・静電気・パルスパワーとプラズマ理工学はH29に合併

※H29に国際セッション(電気エネルギーシステム工学)を新設

※企画セッションとしてH30は6件、H29は7件を開催

セッション申込件数表(部門順)

部門	部門名	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	平均
2	放電・プラズマ・高電圧・パルスパワー	36	51	61	69	61	58	57	75	52	58	49	75	51	58.5
8	電力技術・エネルギー(+旧エネルギー・環境)	18	30	43	52	39	35	38	37	28	28	30	39	28	34.2
4	マグネティックス	43	25	39	39	37	34	39	44	37	36	16	26	29	34.2
13	電子回路	34	40	40	45	37	48	46	31	29	32	20	14	17	33.3
6	パワーエレクトロニクス	33	30	34	30	29	31	37	25	27	30	28	43	31	31.4
22	計算機応用	26	29	50	46	46	39	30	31	26	19	14	20	18	30.3
18	生体工学	31	24	41	34	30	28	22	24	29	22	19	26	32	27.8
15	情報通信	15	33	33	33	30	26	24	38	43	27	22	9	11	26.5
21	パターン理解	26	27	32	31	21	29	32	21	29	21	21	19	16	25.0
3	電気電子材料	12	15	23	31	36	25	25	32	27	25	28	17	8	23.4
20	計算機ハードウェア・ソフトウェア	37	31	30	29	23	27	24	16	11	12	11	16	10	22.3
16	計測	16	31	30	27	18	22	22	17	12	10	16	15	11	19.0
28	国際セッション(電気エネルギーシステム工学)												19	10	19.0
10	電磁波・アンテナ	19	15	28	20	25	13	21	21	20	25	12	9	16	18.8
14	テレビジョン・画像	21	21	36	35	14	21	16	11	19	9	15	10	10	18.3
23	人工知能(+旧自然言語処理)	23	13	21	30	20	13	14	11	21	25	11	17	15	18.0
9	音響・音声	18	16	19	19	28	17	16	18	18	20	6	11	17	17.2
25	国際セッション(電磁波・アンテナ)	10	9	7	18	10	20	13	17	16	22	17	16	14	14.5
5	電気機器(+旧照明)	32	20	27	12	10	15	16	9	9	11	10	5	6	14.0
26	国際セッション(計算機科学・情報技術)	7	13	14	19	20	14	11	12	10	8	4	11	22	12.7
1	理論・回路理論	16	14	19	19	15	15	14	8	7	3	6	4	7	11.3
12	半導体・電子デバイス	15	9	9	17	13	24	16	9	5	3	9	9	5	11.0
11	光および量子エレクトロニクス	11	5	12	14	11	8	10	9	11	18	12	14	7	10.9
17	制御	10	9	24	14	10	9	5	4	4	9	7	5	9	9.2
19	情報基礎論	18	16	10	13	8	4	14	11	8	5	6	3	3	9.2
7	リニアモータ・磁気浮上および電気鉄道	11	8	13	9	16	9	9	10	15	7	3	3	4	9.0
24	教育								10	12	8	3	8	4	8.2
27	国際セッション(フォトンクス)		7	9	6	3	5	3	1	3	0	5	3	9	4.5

平成30年度電気・情報関係学会九州支部連合大会開催地実行委員会 決算報告書

平成30年10月 2日 会計担当:中島 誠

収 入			
項目	金額	小計	金額
開催地委任経費			
準備金		¥ 150,000	
会場アルバイト代		¥ 705,000	
釣銭用		¥ 350,000	
弁当代		¥ -	
懇親会用		¥ -	
	¥ 1,205,000		
懇親会参加費			
当日一般	4,000円 × 11名	¥ 44,000	
当日家族・学生	2,000円 × 1名	¥ 2,000	
実行委員会	3,000円 × 0名	¥ -	
		¥ 46,000	
当日受付参加費			
会員	9/27 4,000円 × 30名	¥ 120,000	
	9/28 4,000円 × 10名	¥ 40,000	
学生	9/27 1,000円 × 10名	¥ 10,000	
	9/28 1,000円 × 10名	¥ 10,000	
非会員	9/27 6,000円 × 1名	¥ 6,000	
	9/28 6,000円 × 0名	¥ -	
座長	9/27 3,000円 × 26名	¥ 78,000	
	9/28 3,000円 × 8名	¥ 24,000	
追加CD-ROM	9/27 2,000円 × 0名	¥ -	
	9/28 2,000円 × 0名	¥ -	
		¥ 288,000	
過入金		¥ 3,000	
不足金		¥ -	
受取利息		¥ -	
総 計			¥ 1,542,000

支 出			
項目	金額	小計	金額
学生アルバイト代			
・ 0.5日 × 8000円 × 6人		¥24,000	
・ 1日 × 8000円 × 5人		¥40,000	
・ 1.5日 × 12,000円 × 30人		¥360,000	
・ 2日 × 16,000円 × 10人		¥160,000	
・ 2.5日 × 20,000円 × 8人		¥160,000	
			¥744,000
大会運営費			
事務準備品(出納帳の緑色)			
屋食代 9/27 弁当430円 × 61名		26,230円	
屋食代 9/28 弁当496円 × 64名		31,744円	
看板用ラミネートフィルム			
ソーテーパー5本		¥ 57,974	
電池単4(24本)		¥ 3,812	
ゴミ袋		¥ 645	
紙コップ		¥ 3,828	
お茶2L		¥ 306	
お茶2L×2		¥ 476	
通信運搬費(レターパックライト)		¥ 173	
		¥ 496	
		¥ 360	
			¥ 68,070
大会委員会費			
屋食代 9/27 弁当 1150円 × 13名		¥ 14,950	
			¥ 14,950
支出計			¥ 827,020
大会事務局への返還金(振り込み分)		¥ 714,980	
振込手数料		¥ -	
			¥ -
総 計			¥1,542,000

開催地実行委員会 一般的な引継事項

第 71 回電気・情報関係学会九州支部連合大会
開催地実行委員会（大分大学）
副委員長 大竹哲史

1. 運営全般

【委員構成】

「連合大会委員会」と「開催地実行委員会」の担当者の分担を次のように定めた。

- (1) 連合大会委員会 副委員長（大竹 哲史）（開催校の主当番学会員から選出）
- (2) 連合大会委員会 庶務幹事（本田 久平）→大会運営の実務担当（主当番学会の庶務幹事）
- (3) 開催地実行委員会 委員長（西野 浩明）→現地実行部隊の責任者
- (4) 開催地実行委員会 副委員長（大竹 哲史）→現地実行部隊の実務担当

今回の主当番学会が情報処理学会であったことから、当学会九州支部役員経験者の大竹准教授が連合大会副委員長に就くこととなった。開催地実行委員長ならびに副委員長は、情報処理学会所属の本学教員、西野教授、大竹准教授が就くこととなった。最終的に、大分大学および大分高専の情報処理学会、音響学会、電子情報通信学会所属の教員 17 名（上記 3 名を含む）で現地実行委員を構成した。

本大会の引継ぎ会議であった第 3 回連合大会委員会（11/13 開催）後の 12/12 に現地行委員会を集めて、大会事務員を交えて大会概要との説明を行った。その後は、幹事団を中心に作業を進め、3 月、8 月、直前の 9 月に開催地実行委員会を開催した（計 4 回）。

2. 予算関係

【開催支援】

- ・大分市観光協会からプログラムおよび予稿集 CD 配布用の紙袋 1,000 枚を提供してもらった。
- ・企業協賛：地元企業からの協賛が少なく、14 社 35 万円と前回大分開催の 18 社 53 万円には及ばなかった。

【事業収入】

- ・講演資格や講演費ならびに聴講費等は従来どおりとした。
- ・講演件数、参加者数の減少がたった。音響学会大分開催、FIT の福岡工業大学開催などの影響と思われる。
- ・平成 27 年度以来、500 件を下回る結果であり、事業収入としては、十分とはいえない。

【大会開催費】

- ・大分大学の協賛を得られたため会場費は無料となり、会場費は削減できた。
- ・一方、学生アルバイトに関して、会場、受付、車両誘導等の担当アルバイトの削減が困難であったことから、例年より若干増加し、59 名、74 万 4 千円の支出となった。
- ・懇親会は、学内の学生交流施設 B-Forêt を利用した。例年通り学生が多く参加したため、学生の参加費単価が安いことから、懇親会参加費収入に対して支出増となった。
- ・開催地においては、開催支援と企業協賛を念頭に置き、上記 3 つで費用の調整が必要である。

3. 事前準備・当日運営

【事前準備】

- ・ 大会前日の午後から、受付担当と会場担当に分かれて、担当教員ならびに学生アルバイトで設営を行った。
- ・ マニュアルを用いて学生アルバイトに対してオリエンテーションを行い、その後設営を行った。特に、受付担当においては、大会事務員から指導もなされた。

【受 付】

工夫したこと

- ・ 初日の午前中は、窓口以外のアルバイトと手の空いている教員で、どの列に並ぶべきかの案内を実施した。それでも長い列になったため、すぐに発表があるなど時間のない人は、列に並ばず先に手続きをしてもらうように特別扱いをした（全部で数名程度）。
- ・ 座長審査用紙は座長受付で配布したが、会場係にもあらかじめ予備を渡しておいた。

問題点

- ・ 初日の午前中は、どうしても受付に来る人が集中し、一時的ではあるが、かなりの列ができてしまった。
- ・ 講演予稿のデータをコピーするための USB メモリーを、時間がないという理由で貸し出したが、期間中に返却されなかった。

次年度申し送り

- ・ 電車やバスの時間などによって特別に集中する時間帯がある場合は、窓口の数を増やすなどの対策が必要になると思われる。

【会 計】

- ・ 特に問題は生じなかった。
- ・ アルバイト領収書の押印は自署サインでも可。ただし、住所等の記入時に誤記の可能性があるため、訂正印が押せるように印鑑を必ず持参するよう周知すべきであった。後日、押印してもらうことになった。

【クローク】

- ・ 設置しなかった。

【会 場】

工夫したこと

- ・ 前回の大会と同様に、会場毎に備品を袋にまとめ、文房具、掲示物も小分けにすることで、管理がしやすかった。
- ・ アルバイト学生には前日にマニュアルを用いて仕事内容を説明し、機器の取扱いのトレーニングを行った。
- ・ 受付と各会場が離れていたため、アルバイトの人員を多くし、各会場に座長補佐 1 名と補助（会場外）のアルバイト 1 名を配置した。
- ・ 会場近くの大会本部を会場アルバイトの拠点にし、備品の管理や審査用紙の保管整理もそこで行った。

良かった点

- ・ 会場担当教員とバイト学生との連絡体制が十分にとれた。

問題点

- ・プロジェクターの接続トラブルは複数あったが、会場備えつきのP Cで対応できた。
- ・会場備え付けのP C 1 台に不具合があり、予備のP Cで対処した。
- ・会場のプロジェクターの不具合があり、予備のプロジェクターで対処した。
- ・Mac 用のVGA 変換ケーブルの貸出が3 件あった。
- ・当日、アルバイト1 名（座長補佐）が体調不良のため欠員が生じた。（会場外のアルバイト日程を組み直し、教員のサポートで対処した。）
- ・前日の事前準備のときに、使用できる粘着テープ(カッターの付いたセロハンテープ)の数が少なく、自前のものやハサミを研究室から持ち寄り対処した。

次年度申し送り

- ・当日の講演キャンセルの対応を、あらかじめ決めておいた方がよいと思う。（時間を空けることで対応した。）
- ・予備のプロジェクター用には長めのHDMI とD-Sub のケーブル(10m 程度)を複数本準備しておく必要がある。
- ・マニュアルでは、各会場の備品に指し棒があったが、実際には数本しかなく使用しなかった。
- ・マニュアルには、備品に延長コードがないが、各会場に延長コードを配布した。（延長コードは大会の備品を使用した。）
- ・学生バイトの事前教育が最も重要と思われる。

【企業展示】

- ・今年度の企業展示の申し込み件数は5 社。（昨年度は3 社）

工夫したこと

- ・机の移動できる教室を割り当てた。
- ・前日に設営した。
- ・お茶を置いて休憩室機能を持たせて人を呼び込むことにした。
- ・搬入時間を前日の夕方に設定し、他からの移動が無いよう直接会場に荷物を届けてもらった。

問題点

- ・アルバイトオリエンテーションの時間と搬入の時間がかぶったため、搬入時間帯に常駐するアルバイトを確保できなかった。
- ・会場が奥まっっており通り道にならなかったのので来場者が少なかった。
- ・県内企業に人材確保の可能性がある旨宣伝して展示してもらったが学生はほとんど来なかった。

次年度申し送り

- ・来場者を得るため、可能ならば人通りのあるところに会場を配置すべきである。

【ネットワーク接続】

- ・情報基盤センタに依頼し、学内WiFi の臨時ID を100 件提供した。

工夫したこと

- ・学内WiFi 利用者には接続情報を配布した。
- ・eduroam が利用できる旨をネットワーク受付に掲示した。

良かった点

- ・利用者に接続情報など必要な情報を配布したため、ネットワークに関する質問はほとんどなかった。

【案内掲示】

工夫したこと

- ・車で来られる方も多いと思われたため、駐車場への誘導看板を設けた。
- ・雨が予想されたため、全ての看板をラミネート加工した。

良かった点

- ・ 支部大会開催前の電子情報通信学会九州支部学生会講演会の段階で誘導用看板を設置していたため、取替えが容易であった。

【特別講演】

- ・ 特別講演を2日目の午後13:00より開催した。学内でもアナウンスし、参加者以外の聴講もあった。

工夫したこと

- ・ AI(自然言語処理)の最先端でご活躍の講師を招聘した。
- ・ 学内でのアナウンスを行った。
- ・ 大分県情報サービス産業協会(OISA)へのアナウンスを行った。

良かった点

- ・ 時代の先端をいく講師だけに内容が大変素晴らしかった。
- ・ 講師には前日の懇親会にもお越し頂いた。

問題点

- ・ 内容からすると、第二大講義室(317名)で7割程度の参加は少ない。アナウンスを早期から繰り返し行うべきだった。
- ・ 特別講演は、例年、開始挨拶・講師紹介 13:00～13:10 講演 13:10～14:20、質疑応答 14:20～14:30として、講師に連絡しているとのことだが、プログラム上の時間は、13時10分～14時20分で、参加者と講演者への情報提供に齟齬があった。
- ・ ホームページのプログラムと特別講演の時間情報が異なっていたことは、開催地への講師の問い合わせで分かった。
- ・ 午後のセッション(14時30分開始)に向かうためか、質疑応答で退席者が少なからずいたのは残念であった。
- ・ 会場変更に関する大会ページの修正が26日までなされず、再度依頼した。

次年度へ申し送り

- ・ 午後のセッション開始が14:30であるなら、特別講演の質疑も含めた実質の終了時間も、14:20が妥当。特に、外部の講演者への連絡は、注意が必要と思われる。

【懇親会】

工夫したこと

- ・ 事前登録では、学生の参加者が多かったので、ご飯もの、揚げ物系の料理を多めにした。
- ・ 大学生協に依頼して、料理の出し方を少しずつだしてもらい形にもらった。(料理がすぐになくなるのを防ぐため)

良かった点

- ・ 受付業務については、特に大きな問題はなかった。
- ・ 会の進行も、余興をしなかったが、最後まで何事もなく進めることができた。
- ・ 最後まで料理があり、途中で食べるものがなくなるということはなかった。

問題点

- ・ 料理が少し多すぎて、また、出し方に少々問題があり、余ってしまった。(揚げ物が終盤に出されてきた)

次年度へ申し送り

- ・ 懇親会会場での受付業務、特に集金関係の業務は、そんなに複雑ではないが、お金を頂く可能性がありますので、マニュアル化し、お金の扱いを決めておいた方が良いと思われる。

以上

電気・情報関係学会九州支部連合大会 運営関係の引継事項

庶務幹事

1. 公知日の決定について

- (H24)本年度は9月14日(大会のほぼ1週間前)に事前申込者や座長を含めた関係者に公開することに大会委員会で決定し、実施した。
- (H30)前年度を踏襲。

2. 大会参加費について

- (H25)参加費、懇親会費とも、事前申し込みの場合1,000円引きとした。座長参加料については、参加費廃止の議論も行われたが、大会委員会において座長が依頼し難くなるとの反対意見があり、座長参加費は存続となった。しかし、座長の便宜のためだけに座長参加費を存続させるよりも、当日受付の手数を考えれば次年度以降座長参加費の廃止を検討してはどうか。
- (H26)会員のみとした講演参加に非会員の参加を認めた。参加費は会員の倍の8,000円とし、講演申込時点で入会済みである事を必須とした。この為、昨年度まで認めていた、入会手続中の登録については一切認めず、入会手続中の申込については非会員扱いとした。この旨は、3月の早い段階から、各学会および大会サイトでも周知を行っていたが、実際は参加登録時に把握するケースが多く、多数の問合せと意見が寄せられた。

会員登録の確認は大会事務局にて、仮番号での登録、および国際セッション用に儲けていた111111での登録(国際セッションに限り、海外国籍で非会員の場合は会員扱いとなる為)、および同一会員番号での複数登録をピックアップし、入会状況を各学会に確認し、入会手続中および入会が確認できなかった件および、講演者本人ではなく指導教員など他者の会員番号で登録されていた件など、会員条件を満たしていない登録については、個々に非会員となる旨を通知し、承諾していただいた。

なお、入会手続中の会員登録を認めて欲しいという意見が多数寄せられており、学会側からも、入会促進を考慮するならば、手続中の登録も認めて欲しいという意見があった。

入会手続については、各学会にて対応が違う事(IEEE、情報処理⇒即日発行、電気、通信学会⇒入金確認後に会員番号発行、但し本人への通知は約2ヶ月後)も考慮し、次年度は検討する必要があると思われる。

- (H27)入会手続中の取扱について協議の結果、非会員参加実施が2年目であり、1年での変更は返って混乱を来すのではという意見により、H26年度と同じ条件での参加受付となった。しかし、若手表彰の表彰対象について、通信学会などより表彰規程から「会員に限る」という条件を撤廃しなければならないという報告があり、また、入会促進を考慮すると、入会手続中の会員登録を認めて欲しいという要望が引き続き上がっているため、次年度に向けて再検討が必要と思われる。
- (H28)熊本震災支援のため、今年度は被災地区の大学および高専からの参加者を対象として割引(半額)を適用した。入会手続中の取扱について、H27年度と同じ条件での参加受付となった。また、座長決定後に欠席交代についての参加費について取り決めに確定された。
- (H29)特段の問題発生はなかった。講演受付についても、当初より受付期間延長を行わないと決定されていたため、今回は延長は行わなかった。
- (H30)会員増強を目的に入会手続中の取り扱いを、申込時までの完了から、登録締切日までに入会手続の完了にて会員扱いに変更された。講演登録時は入会手続中の表示にて受け付け、講演料も会員の4,000円にて請求。その後、講演登録締切翌日(7/11)までに会費の入金を確認できる資料の送付、または仮会員番号による入会状況の確認などにて、入会手続中の登録者の入会を確認した。なお、入会手続中で入会を確認できなかったのは1名のみで、こちらは後日非会員の参加費を追加入金いただいた。結果、講演参加者の会員:非会員の割合が以前は7:3であったのに対し、今年度は8:2と会員の割合が増えたが、講演総数としては500件を超える事は出来なかった。

3. 大会委員会の運営体制について

- (H24)開催準備が滞りなく行われるように、また第1回大会委員会で準備状況を報告できるように、大会副委員長、庶務幹事、プログラム委員長、現地実行委員長・副委員長から構成される幹事会を4月に開催した。参考にされたい。現地実行委員会は7月には各委員の分担を決め、活動を開始している。役割の見直しは覚書に反映させた。
- (H25)大会委員長および主当番学会の庶務幹事が開催地と同じ熊大所属であったため、大会副委員長、庶務幹事、開催地実行委員長の3名で実務に当たった。
- (H26)大会委員会の体制は前年と同様。庶務幹事、プログラム編集委員長、開催地実行委員、大会事務局での幹事会を早い段階（H25年12月）に開催した。
プログラム編集作業にて、7/24の編集委員会開催前までに、各セッションの申込件数と会場データを元に、各セッション日程と会場割り振りを行う日程表を作成しなければならないが、講演申込の延長（7/18）により、作成作業日程期間が短くなってしまった。
（当初予定 7/15 締切、7/16 業者よりデータ納品、7/16～7/22 日程表作成、7/22 事前作業用資料配付、7/24 編集会議当日）
しかし、作成作業についてプログラム編集委員長との連絡がとれず、やむを得ず急遽、大会事務局と開催地実行副委員長にて日程表作成作業を行う事となった。日程表はプログラム編集会議にて必要な資料であり、また、論文番号にも係わるなど重要な資料となるため、日程表の作成方法について、再考する必要がある。
- (H27)参加章を本年度より名刺サイズの名札＋首から提げる名札ケースに変更。名札ケースについては当初回収を検討していたが、回収後の手間を考慮し回収しなかった。ただ、周知が不足していたため、次年度からは回収しない事を周知する必要があると思われる。
- (H28)参加章は前年度と同様のものを使用した。名札ケースについては回収後の手間を考慮し回収しなかった。今年度は回収しない事をアナウンスしたため、名札ケースを返却しようとする参加者は皆無であった。
- (H29)特段大きな変更点はなく前年度を踏襲。なお、電子情報通信学会アンテナ・伝搬研究会より申し出があり、今回限りの企画セッション「将来の無線システムを実現するアンテナ・伝搬の諸技術」を開催。7件の講演が行われた。また、電子情報通信学会創立100周年記念として、例年開催している特別講演会を、通信学会主催にて開催。なお、講師招聘および開催費用については、通信学会の負担にて行った。
- (H30)今後の大会活性化などについて、第2回大会委員会開催後に幹事会が開催された。

4. 若手発表審査について

4-1. 座長からの採点票の回収について

- (H25)採点票の共通化の提案など
座長が採点表を提出せず持ち帰った事例があった。また、座長が採点の要領を把握しておらず、不十分な採点票が複数見られた。これらに対しては、事後に当該座長に連絡をして採点結果の回収を行った。これまで、事務局からの事前連絡（依頼）によって座長に注意深く指示をしているところであるが、依頼文の内容や大会直前に確認メールを送るなど、さらに工夫されたい。
- (H27)採点票の回収は、各講演会場の会場担当バイトが座長から回収し、セッション終了後に会場担当教員が各担当より回収、チェックを行った。また採点票にも会場担当に渡す事を記載。今年度は問題なく回収ができた。
- (H28)採点票の回収は、各講演会場の会場担当（座長補佐）が座長から回収し、セッション終了後に会場担当教員が各担当より回収し、チェックした。今年度は問題なく回収ができた。
- (H29)(H30)特段の問題は見受けられなかった

4-2. 採点基準の認識について

- (H23)若手表彰の点数の付け方の基準が曖昧で、採点者によって評価のばらつきが大きい。平均の目標値を定めるなどの評価のばらつきを抑えるための検討が必要である。
- (H24)今年度は特に対応をしておらず、座長のつけた生点をそのまま各学会に渡しており、課題として残ったままである。翌日開催された電子情報通信学会九州支部学生会講演会での点数配分の指示の方がより細かく、ひとつの参考になるかと思われる。なお、今年度は座長が発表の関係

者となっているセッションは1件のみであった。

- (H25)採点のばらつきを抑えることは困難であり、今年度も対応していない。できるとすれば、採点票に基準が2であることを強調して表示することくらいか
- (H28)質疑応答の採点は別々に行った方が良いのではないかと意見が座長から出た。

4-3. 採点票の集計作業について

- (H26)例年大会当日に集められた採点票を、庶務幹事が集計しデータ化しているが、庶務幹事が行う理由について明確なものはなく、作業内容的にはプログラム編集委員会の範疇に入ると思われる。大会当日はプログラム編集委員長には、例年急な座長欠席などに備えて、例年大会本部に詰めてもらっているが、座長欠席の対応は開催地側で調整してもらう事が殆どで、作業内容があまりないのに長時間拘束してしまう事ともなっている。この為、採点票の集計作業および、データ化については、プログラム編集委員長の作業としてはどうか。
- (H27)採点データの集計作業はプログラム編集委員長が行う事となった。なお、集計作業は大会当日ではなく、持ち帰りにて後日行われた。
- (H28)前年度と同様に集計作業を行った。大会本部にプログラム委員長が待機し、午前、午後で受取その場で集計作業を行った。なお、採点票は各講演会場の担当学生が回収するよう1本化、座長にもその旨を伝えていたため、回収はスムーズに行われた。
- (H29)採点票の回収後の得点入力作業はプログラム編集委員長が担当しているが、従来は当日座長欠席の対応が主で大会当日に現地入りしてもらっていたが、実際の対応は現地実行委員会に依頼するケースが多いため、数年前より庶務幹事が担当していた入力作業をプログラム編集委員長が担当するようになった。しかし、入力は大会の午前、午後にまとめて採点票が届いて唐の作業であり、現地の講演会場担当にて採点票回収の確認が取れば、現地で対応する必要性が低いと思われるため、採点票は日毎大会終了後にPDF化したものをプログラム編集委員長に送信し、原本は大会事務局にて保管管理する方法も検討してはどうか。
- (H30)採点票は大会終了後にPDF化しメールにてプログラム編集委員長に送付、入力作業を行った。講演会場担当で採点票の回収確認が取れるため以後はこの方式で問題ないと思われる。

6. 連合大会論文募集の案内、活性化について

- (H23)主催学会のメーリングリストを通じて、各学会の会員に連合大会の論文募集に関する案内を流す必要がある。これまでWebページの公開だけで、各学会に投稿の呼びかけ依頼を行っていなかった。Webページの公開以降、定期的に案内を流してもらうよう依頼し、締め切りが近くなってきたら、更に短い周期で案内を行うことで投稿数を伸ばせる可能性がある。
- (H24)従来通り各学会（本部）に開催通知を依頼するだけでなく、各学会九州支部の幹事にもWebページ公開時および論文投稿受付開始時にメールなどでの案内を依頼した。今後も継続するのがよいと思われる。
参加者の増大のために、各大学、高専にポスターを配布するという意見も出されている。必ずしも参加者増加傾向にあるわけではないので、活性化の方策は今後も検討が必要である。
- (H25)今年度は新たに、関係機関へのポスターの配布、および各学会への参加依頼メールの直前配信依頼を行った。結果的に参加者数は増加しなかったが、引き続き実施されたい。
学術会議としての大会の魅力を高めることと、組織的な広報・勧誘活動の必要性を強く感じる。
連合大会の位置づけや、学会としての取り組みなど、各学会の連合大会に対する意識と関与を高めるために、アンケートを取ってはどうか？
- (H26)関係機関への大会ポスターの配布を前年度に続き実行。なお、ポスターサイズをA3で作成したが、他の掲示物に紛れてしまうため、次年度からはサイズをA2と一回り大きくしてはどうか。講演登録締切日を当初は7月15日(火)としていたが、同日18時時点で申込件数が300件程度と低く、例年は400件程度あるため、件数が500件を下回る事が懸念された。この為、緊急に大会幹事にてメール審議を行い、7月18日(金)まで2日間締切日の延長を行い、最終的には昨年度より18名減ではあるが500件以上の参加を募る事ができた。しかし、急の受付延長であったため、その後のプログラム編集に係る作業時間を圧迫してしまった。今年度より大会サイトの参加費支払方法の案内ページを英訳し、設置した。
- (H27)大会ポスターの配布を今年度も実施。しかし、講演登録数が登録締切日7/14時点で500

件を下回ったため、登録期間を 7 月 16 日(木)まで延長。しかし余り効果は無く、最終的にも 500 件を下回る結果となった。

- (H28)大会ポスターの配布を今年度も実施した。また、締切日時点にて登録数が 360 件程と伸びないため、登録締切日を 7 月 13 日(水)から 7 月 15 日(金)まで延長し 40 件ほど増えたが、400 件と例年よりも件数が下回った。
- (H29)大会ポスターの配布を例年と同じく実施。
- (H30)昨年度からの継続審議として、論文集 CD-ROM の廃止と国際セッションの海外籍参加者の優遇措置（非会員でも会員と同じ講演料とする）について審議を行った。

8. 事務局の運営について

- (H26)電子情報通信学会九州支部の事務担当者と連合大会事務局員は兼任であったため、通信学会事務局員の雇用状況（派遣契約）に合わせ、通信学会九州支部に委託するという形で雇用していたが、派遣契約の継続が出来なくなり、連合大会独自での契約が必要となったため、事務局員個人と業務委託を月 12 万円にて契約する事となった。
- (H29)事務局使用のノートパソコンが不調のため買い換え（前年度に了承済みで予算組込済み）を行った後、連絡用の携帯電話（スマホ）が故障したため、急遽こちらも購入する事となった。また、大会事務局を設置している NTT 西日本福岡支店の部署がビル移動に伴い、大会事務局も移動となり 7 月より住所が変更となった。

9. 大会参加者からの要望について

参加申込時に記載されたアンケート内容からの要望

- 参加費用の支払をクレジットカード払いにしてほしい
⇒毎年要望を受けるがコスト的に難しい（決済に手数料が発生する）
- 引換券・請求書送付先の送付先を指導教員にするための指定欄がありません。

10. その他

- (H26)大会開催に伴うイベント保険の加入について、昨年度までは日本興亜損保に加入していたが、同社が合併により、今年度より「損保ジャパン日本興亜」にて契約。保険の補償内容も昨年度のものから変更された。（昨年度までは施設内の設備や参加者携行品などへの物損賠償補償があったが、今年度契約の保険は補償無し。大会期間中の会場内での事故のみが対象）
- (H26)科学技術振興機構より、当大会論文集を機構が運営する文献データベースへの登録依頼があった。登録内容は発行機関などの書誌情報および抄録のみで本文は掲載されない事、また当大会の講演論文集を掲載している J-Stage も同機構が管理しており、有効性が認められたため、大会幹事にてメール審議を行い、承諾した。
- (H28)現地の詳細情報を全登録者に、大会直前に配信した。
- (H29)講演件数は前年度より増えたが、採算ラインの 500 件を割った事と、企業協賛の減少、および各種支出の増加などがあり、現時点の予測だと初の赤字決算となる可能性が強い
⇒最終的に約 9 万円の赤字となり、主当番 3 学会より 5 万円の分担金追加を行った。

2019年度会告（案）

2019年度(第72回)電気・情報関係学会九州支部連合大会
開催案内および講演募集

- 期 日 : 2019年9月27日(金)・28日(土)
- 会 場 : 九州工業大学 戸畑キャンパス (福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1)
- 重要な日程 : 1 講演申込(タイトルとアブストラクト)
6月10日(月)～7月9日(火) 24:00
講演費の振込期限: 7月10日(水)
- 2 講演論文原稿受付
6月10日(月)～8月9日(金) 24:00
- 3 聴講事前申込, 追加CD-ROM事前申込
6月10日(月)～8月16日(金) 24:00
聴講費・CD-ROM購入費の振込期限: 8月19日(月)
- 講演者 : 原則、主催学会会員に限ります(当支部所属に限られません)が、非会員の講演も可能です。会員資格での講演申込は、所属学会の会員番号が求められますので、未入会の方はこの機会にいずれかの学会へのご入会をお勧めいたします。※入会申請中の方は、講演申込締切日までに主催学会いずれかに入会申請(申込、入会金かつ会費の入金)を完了させ、参加費振込期限までに、証明できるものを大会事務局に提出した方に限り、会員資格での参加が可能です。詳しくは大会サイトをご確認下さい。
- 講演内容 : 最近行った研究、計画および工事報告、現地試験報告、新製品の紹介など。
- 参加費 : 講演: 1件 主催学会会員 4,000円、非会員 8,000円
聴講: (事前登録) 主催学会会員 3,000円、学生 無料、非会員 5,000円
(当日登録) 主催学会会員 4,000円、学生 1,000円、非会員 6,000円
※聴講は事前申込の払込期限までに支払の場合 1,000円引き
※学生の聴講無料には論文集CD-ROMは付いておりません。
- 協賛企業講演 : 協賛いただいた企業の皆様に活動内容・製品などについてご講演いただける機会を設けております。また、同内容をご展示いただけるスペースを用意いたします。詳しくは大会サイトをご覧ください。
- 協賛企業展示
- 大会サイト : <http://www.jceee-kyushu.jp/>
- 主 催 : 電気・情報関係学会九州支部連合大会委員会
(一社)電気学会、(一社)電子情報通信学会、(一社)情報処理学会、
(一社)照明学会、(一社)電気設備学会、(一社)映像情報メディア学会、
(一社)日本音響学会の各九州支部、IEEE Fukuoka Section
- 問合せ先 : 電気・情報関係学会九州支部連合大会事務局
〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2-3-1 東館4F
TEL: 080-6425-5250 Email: sec@jceee-kyushu.jp

平成30年度予算

収 入		支 出	
項 目	予算額	項 目	予算額
1.分担金等収入		1.事業費	
50.分担金収入	1,978,000	0.講演会費	181,000
2.事業収入		1.システム費	1,614,000
51.講演申収入	2,400,000	2.大会開催費	1,775,000
52.聴講申込収入	612,000	事 業 費 小 計	3,570,000
53.論文集販売収入	12,000	2.運営費	
54.懇親会収入	190,000	3.大会委員会費	256,000
55.協賛収入	478,000	4.プログラム会議費	30,000
事 業 収 入 小 計	3,692,000	5.幹事会費	-
2.雑収入		6.開催地実行委員会費	4,000
56.著作権分配金	50,000	7.事務費	417,000
57.補助金収益	-	8.事務委託費	1,444,000
58.財産運用益	1,000	9.租税公課	-
59.雑収入	-	10.雑支出	-
雑 収 入 額	51,000	運 営 費 小 計	2,151,000
総 収 入 額	5,721,000	総 支 出 額	5,721,000

2019年度電気・情報関係学会九州支部連合大会委員会予算案

収 入		支 出	
項 目	予算額	項 目	予算額
1.分担金等収入		1.事業費	
50.分担金収入	1,738,000	0.講演会費	181,000
2.事業収入		1.システム費	1,273,000
51.講演申収入	2,320,000	2.大会開催費	1,631,000
52.聴講申込収入	593,000	事 業 費 小 計	3,085,000
53.論文集販売収入	-	2.運営費	
54.懇親会収入	174,000	3.大会委員会費	225,000
55.協賛収入	348,000	4.プログラム会議費	27,000
事 業 収 入 小 計	3,435,000	5.幹事会費	-
2.雑収入		6.開催地実行委員会費	4,000
56.著作権分配金	50,000	7.事務費	437,000
57.補助金収益	-	8.事務委託費	1,444,000
58.財産運用益	1,000	9.租税公課	1,000
59.雑収入	-	10.雑支出	1,000
雑 収 入 額	51,000	運 営 費 小 計	2,139,000
総 収 入 額	5,224,000	総 支 出 額	5,224,000

2019年度電気・情報関係学会九州支部連合大会委員会 予算案

収 入			支 出		
項目	実計算	予算額	項目	予算実績	予算額
1.分担金等収入			1.事業費		
50.分担金収入	主 審学会 分担金 ¥496,000 × 3 学会 副 当審学会 分担金 ¥50,000 × 5 学会	1,488,000 250,000	諸謝金	招待講演 海外講師1名×8万円(源泉+復興特別所得税20.42%含む) 招待講演 講師1名×2万円(源泉+復興特別所得税10.21%含む) 特別講演 講師1名×5万円(源泉+復興特別所得税10.21%含む)	100,527 22,274 55,685
2.事業収入	分 担 金 収 入 小 計	1,738,000	支払手数料	振込手数料(源泉徴収支払分)	172 1,000
51.講演申込収入	講演申込(会員) ¥4,000 × 420 件 講演申込(非会員) ¥8,000 × 80 件	1,680,000 640,000	委託費	サマー・受付・登録(講演500件、聴講150件、計650件厚紙)6ヶ月使用 2018年度大会J-care協賛データ作成、アップロード(477×8160円/税)+ネット変更費用	178,668 827,820
52.聴講申込収入	講演収入計	2,320,000	印刷製本費	プログラム冊子、引換券、封筒	118,973
事前聴講収入	主催学会会員(座長含む) 学生(聴講のみ) 学生(講演論文集ダウンロード権有り) 非会員	270,000 - 2,000 5,000	印刷製本費	プログラム冊子、送料	270,324
当日聴講収入	事前聴講申込計 当日聴講申込計	277,000 316,000	通信費	講演、聴講事前登録者への郵送費(82円×800件)	12,420
	座長	50,000	支払手数料	振込手数料	270 1,000
	座長	5,000	システム費計	システム費計	1,270,807 1,273,000
53.論文集販売収入	(追加CDROM)大会参加 (CDROMのみ)大会不参加	277,000 200,000	賃借料	大会会場借料 その他(懇親会会場など)	400,000 -
	論文集販売収入計	477,000	大会運営本部経費(開催地実行委員、会場アルバイト、大会関係者)	大会運営本部経費(開催地実行委員、会場アルバイト、大会関係者)	400,000 53,991
54.懇親会収入	事前申込 一般 ¥3,000 × 30 件 事前申込 同伴家族・学生 ¥1,000 × 40 件 当日申込 一般 ¥4,000 × 10 件 当日申込 同伴家族・学生 ¥2,000 × 2 件	90,000 40,000 40,000 4,000	会議費	大会体側茶菓代 懇親会代	7,000 300,000
	懇親会収入計	174,000	大会運営関連の宅急便送料	大会運営関連の宅急便送料	360,642
55.協賛収入	広告 1頁(指定有り) ¥55,000 × 2 件 広告 1頁(指定無し) ¥50,000 × 1 件 広告 1/2頁 ¥25,000 × 4 件 広告 1/4頁(縦・横) ¥12,500 × 3 件 展示 コマA(電源無し) ¥5,000 × 1 件 展示 コマB(電源有り) ¥10,000 × 1 件 協賛 (1口5000円) ¥5,000 × 7 口	110,000 50,000 100,000 37,500 5,000 10,000 35,000	通信運搬費小計	大会通信運搬費小計	17,759
	協賛収入計	347,500	印刷製本費小計	印刷製本費小計	97,104
事業収入小計	3,434,500	3,435,000	消耗什器備品費小計	消耗什器備品費小計	5,372
2.雑収入			会場アルバイト代	会場アルバイト代	102,476
56.著作権分配金	芸術著作権分配金	-	その他(大会スタッフ・デザイナー料等)	その他(大会スタッフ・デザイナー料等)	629,333
57.補助金収益	助成金	50,000	臨時雇用	臨時雇用	50,116
58.財産運用益	銀行利息	5	旅費交通費	事務局・旅費・宿泊費	679,449
59.雑収入	雑収入額	50,005	雑費	傷害保険加入費(損保ジャパン日本興亜 800名/日×2日間)	4,240
雑収入額	50,005	51,000	支払手数料	銀行振込手数料、両替手数料	16,490
			大会開催費小計	大会開催費小計	1,621,912 1,631,000
			2.運営費		3,071,377 3,085,000
			会議費	茶菓代、昼食代(第2回のみ)	18,514
			旅費交通費	委員、各学会支部長、事務局旅費	201,602
			支払手数料	振込手数料	3,295
			大会委員会費	大会委員会費	223,411 225,000
			会議費	茶菓代	828
			臨時雇用	編集アルバイト代(7,000円/日×3名)	21,000
			消耗什器備品費	事務用品、消耗品	520
			旅費交通費	委員、事務局旅費	3,698
			プログラム企画費	プログラム企画費	26,046 27,000
			会議費	茶菓代	-
			幹事会費	幹事会費	- -
			会議費	茶菓代	1,000
			旅費交通費	委員、事務局旅費(福岡⇄九大(回))	1,500
			支払手数料	銀行振込手数料	86
			開催地実行委員会費	開催地実行委員会費	2,586 4,000
			消耗什器備品費	事務局使用 事務用品、消耗品	308,089
			印刷製本費	封筒、名刺など	215
			支払手数料	銀行振込手数料	1,499
			通信運搬費	郵送料、メール便、宅急便・宅配便 送料 ドメイン更新料(1年分)	6,295 3,067
			事務費	事務費	114,000 114,000
			委託費	業務委託費	433,175
			支払手数料	銀行振込手数料 270円×12	3,240
			事務委託託費	事務委託託費	1,443,240 1,444,000
			租税公課	租税公課	3
			雑支出	雑支出	1,000
			運営費小計	運営費小計	2,128,461 2,139,000
総収入額	5,222,505	5,224,000	総支出額	5,199,837	5,224,000

2019 年度連合大会委員会 各委員の選出について

主当番学会：電気学会 副当番学会：IEEE Fukuoka Section

2019 年度 大会委員会

- ◆大会委員長（主当番学会支部長）
【 山科 秀之（電気）】 [2018 年度 富浦洋一（情報処理）]
- ◆大会副委員長（副当番学会支部長）
【 （IEEE）】 [秋田昌憲（音響）]
- 大会副委員長（主当番学会および開催校より選出。前年度次期副委員長が就任）
【大塚 信也（九工大・電気）】 [大竹哲史（大分大・情報処理）]
- 庶務幹事（主/副当番学会 庶務幹事より選出。前年度次期庶務幹事が就任）
【 小迫 雅裕（電気）】 [本田久平（情報処理）]
【 （IEEE）】 [勝瀬郁代（音響）]
- ◆会計幹事（主/副当番学会 会計幹事より選出。前年度次期会計幹事が就任）
【 藤瀬 伸浩（電気）】 [山内由紀子（情報処理）]
【 （IEEE）】 [福島 学（音響）]
- ◆委 員（主/副当番学会以外の庶務幹事）

2019 年度開催地実行委員会 （開催校：九州工業大学）

- 開催地実行委員長（開催地より選出。所属学会は問わない。前年度次期開催地実行委員長が就任）
【 三谷 康範（九工大）】 [西野 浩明（大分大）]
- 開催地実行副委員長（開催地より選出。所属学会は問わない。前年度次期開催地実行副委員長が就任）
【 小迫 雅裕（九工大）】 [大竹 哲史（大分大）]

2019 年度プログラム編集委員会

- プログラム編集委員長（九州大学より選出。所属学会は問わない。前年度プログラム編集副委員長が就任）
【島田 敬士（九州大学大学院システム情報科学研究院 情報知能工学部門）】
[中村 大輔（九州大学大学院 システム情報科学研究院電気システム工学部門）]
- ◆プログラム編集副委員長（九州大学より選出。所属学会は問わない）
【 （ ）]
[島田 敬士（九州大学大学院システム情報科学研究院 情報知能工学部門）]

次期大会準備委員（2020 年度主当番学会：電子情報学会／副当番学会：映像情報メディア学会／開催地：福岡）

- 次期大会副委員長（次年度主当番学会および開催校より選出。2020 年度次々期大会副委員長が就任）
【 石田健一（九産大・電子情報通信）】 [大塚 信也（九工大・電気）]
- 次期庶務幹事（次年度主/副当番学会 庶務幹事より選出）
【 （電子情報通信）】 [小迫 雅裕（電気）]
【 （映像情報メディア）】 [（IEEE）]
- 次期開催地実行委員長（次年度開催校より選出。所属学会は問わない）
【 （九産大）】 [三谷 康範（九工大）]
- 次期開催地実行副委員長（次年度開催校より選出。所属学会は問わない）
【 （九産大）】 [小迫 雅裕（九工大）]
- ◆次々期大会副委員長（2021 年度主当番学会および開催校より選出）
【 （佐賀地区・情報処理）】 [石田健一（九産大・電子情報通信）]

【選出スケジュール】

- は 2018 年度 第 3 回大会委員会（引継会議）までに選出
- ◆は 2018 年度 第 4 回大会委員会までに選出
- は 2019 年度 第 3 回大会委員会（引継会議）までに選出

2019 年度連合大会国際セッション開設提案の募集について

下記につけております「国際セッションに関する申し合わせ」に基づき、2019年度連合大会国際セッションの開設提案を募集致します。

ご希望をお持ちの連合大会加盟団体各位におかれましては、下記の事項をメールで、来年2月末までにお送りください。2月の第4回大会委員会において審議致しまして、各学会の会告に採択された国際セッションを含む連合大会の案内を掲載できるように致します。

【大会事務局】 sec@jceee-kyushu.jp

記

- 論文募集分野(英文)／(和文)
- セッションプログラム編集担当者氏名・所属・連絡先
- 共催希望団体があればその団体名

以上

国際セッションに関する申し合わせ

(平成18年9月28日連合会役員会にて承認)

名称と位置付け

- 国際セッション (International Session) とする。複数の募集分野がある場合には、「国際セッション(1), (2)…」 (International Session (1), (2)…) のように表記する。
- 従来の「アジアセッション」と同様に、海外からの留学生、訪問研究者及び日本人からの一般講演論文を受け付ける。国際セッション講演者は、九州支部連合大会主催学会の会員に限る。ただし、招待講演者および外国人講演者は連合大会主催学会の会員外でも可能である。この特例は、短期の訪問者や留学生が日本国内の学会へ入会しなくても連合大会での発表の機会を得られるようにするためのものであり、他の一般講演セッションに拡大して適用することはない。国際セッションの投稿論文および講演で使用する言語は英語でなければならない。

論文募集分野の選定法

- 例年9月(大会期間中)に開催の大会委員会にて、庶務幹事長より、次年度の国際セッションの提案(論文募集分野名称、和/英)を各加盟団体に依頼する。
- 国際セッションの提案は、各加盟団体からのみ受け付ける。ただし、セッションごとに、それ以外の関連組織との「共催」とすることができるものとし、希望があれば提案時に明らかにする。共催にあたり、ロゴ使用料などが発生する場合には、申請した団体が費用を負担する。
- 例年3月ごろ開催の第4回大会委員会にて、採否を決定する。ただし、その後の追加にも柔軟に対応できるよう、各学会に送る会告原稿では、国際セッションの論文募集分野を例えば「電磁波・アンテナなど」のように表記することによって、追加・変更に含みを残しておく。
- 募集分野採択の最終期限は、連合大会の公式webサイトが開設されるまでとする。

2019 年度連合大会国際セッション(予定)

(1)「Electromagnetic Waves and Antennas」/「電磁波・アンテナ」

- 共催希望団体: IEEE Antennas and Propagation Society Fukuoka Chapter

(2)「Computer Science and Information Technologies」/「計算機科学・情報技術」

- 共催希望団体: IEEE Computer Society Fukuoka Chapter

(3)「Photonics」/「フォトンクス」

- 共催希望団体: IEEE Photonics Fukuoka Chapter

(4)「Electrical Energy System Engineering」/「電気エネルギーシステム工学」

- 共催希望団体: 電気学会九州支部

論文集 CD-ROM および国際セッション参加費の検討について

平成 29 年度第 4 回大会委員会にて、下記 2 件の審議検討を行う事となった。検討内容については、主催各学会に持ち帰り検討のうえ、今年度第 3 回大会委員会にて最終的な審議決定を行う。

なお、2 件とも実施となった場合は次年度大会からの適用とする。

議題 1 論文集 CD-ROM の廃止について

最近の学会では論文は Web で公開しており、当連合大会でも Web 公開は行っているため論文集 CD-ROM を利用する必要が無く、CD-ROM の作成と配布を廃止してはどうか。

【各学会の回答】

◆情報処理学会

今後細かい問題を検討する必要はあるが廃止で良い。廃止した後の対応については、次のような案が出された。

- ・論文を一般公開してはどうか。
(アクセスのための ID やパスワードを管理するとコスト高になる。)
- (一般公開する場合は、著作権の問題があるので、公開日を明確にする。)
- ・協賛企業については、大会ページ内で企業ホームページへのリンクを強調することで対応する。

◆電気設備学会九州支部：廃止に賛成

◆日本音響学会九州支部：CD-ROM は廃止でよい

◆IEEE 福岡支部：廃止に賛成

◆映像情報メディア学会九州支部：廃止に賛成

◆電子情報通信学会九州支部

論文集は廃止 → CDROM 作成代 (プレス) 費用約 24 万円の削減

【対応策】

- ・論文集は Web 公開にて対応 → 開設は開催 1 週間前～大会終了後 1 ヶ月 (10 月末) まで
- ・当日聴講登録参加者については当日登録者用の ID とパスワードを発行し対応。
ID は 4 桁の登録番号なので、当日登録用として 9000 番台から予め発行可能。配布は受付時に記入する登録台紙に印字しておく
- ・著作権管理の為、各主催学会への論文集データの提出は必要 → 論文データのための CDROM でも可能
- ・協賛企業および不参加の論文集のみ購入者に対しては、プレスではなく CD コピーを作成して対応
→ コピー業者に依頼した場合 (企業協賛用 12 枚、販売用 10 枚、主催学会配布用 8 枚 計 30 枚)
初期費用 1,000 円、コピー@45 円×30=1,350 円、窓付紙ケース@10 円×30=300 円
ラベル印刷 (モノクロテキスト) @40 円×30=1,200 円、送料 1,100 円 合計 4,950 円
- ・マスター CDROM は現在作成を依頼している業者に作成を依頼 → 作成料は 2,000 円程度
- ・コピー作成での論文集価格 大会参加者 1,000 円 / 大会不参加 2,000 円 (送料込み)

◆電気学会

電気学会九州支部としては廃止。ただし、これまで同様に Web からのダウンロード、(資料をダウンロードができない人向けに、会場で) USB の配布は維持する。

議題2 国際セッションの参加費の変更について

現状、講演の非会員の参加費は8,000円だが、国際セッションで講演を行う外国人の参加費は4,000円（会員扱い）となっている。外国人に対する優遇措置は必要無いのではないかな？

【検討内容】

1. 外国人特別扱いを一切止める（国際セッション参加でも非会員は一律8,000円）
2. 国際セッション参加者全員一律4,000円（日本人も含む）
3. 国際・一般関係なく外国人講演者4,000円
4. 国際セッション参加の外国人4,000円（現状維持）

【国際セッション設立の経緯】

- 電子情報通信学会九州支部からの提案にて「アジアセッション」としてH13年度より実施。この際は招待講演者以外は留学生および在日外国人教官を含む講演者は一般講演と同じ扱いとした（招待講演1件、在日外国人教官1件、留学生2件、日本人教官6件）
- H19年度大会より現在の国際セッションに変更。（参加費は一般講演と同じだが、国際セッション参加者の外国人は非会員でも参加可能とした。当時は非会員は参加不可）
- **【H18 年度連合大会資料より抜粋】** 従来の「アジアセッション」と同様に、海外からの留学生、訪問研究者及び日本人からの一般講演論文を受け付ける。国際セッション講演者は、九州支部連合大会主催学会の会員に限る。ただし、招待講演者および外国人講演者は連合大会主催学会の会員外でも可能である。この特例は、短期の訪問者や留学生が日本国内の学会へ入会しなくても連合大会での発表の機会を得られるようにするためのものであり、他の一般講演セッションに拡大して適用することはない。
- H24年度第4回大会委員会にて、非会員の講演参加が可能となった。この際、国際セッションの海外籍参加者についてはこれまで同様会員として参加可能となり、参加費も会員価格の適用となった。

【参考資料：国際セッション参加者】

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
講演総数	17	29	30	43	33	39	27	30	29	30	26	30
海外籍			15	16	9	9	8	16	12	8	8	19
非会員			3	5	6	4	3	10	6	3	3	8

【各学会の回答】

◆映像情報メディア学会九州支部

国際セッション参加者一律4,000円

◆電気学会

英語での発表、質疑応答を行うセッションである国際セッションに対して支援を行うという考えから、「国際セッションでの講演者の参加費を¥4,000（国籍を問わず）」。

◆電気設備学会九州支部

「3. 国際・一般関係なく外国人講演者4,000円（会員価格）」に賛成。

留学期間だけの日本の学会への参加は、留学生に負担を強いることになる。

また、国際的な大会にする為にも留学生の参加を増やすほうが良い。

◆IEEE 福岡支部

■ 国際セッション：4 択のうち 1

会員と非会員の差をつけるだけとし、外国人の特別扱いをやめる。

理由：これを機に、IEEE への入会を促す。IEEE 学生会費は\$13 とあり負担は小さい。 また、昨今はオープンアクセスが進み、学会の会員であるメリットが分かりにくい。参加費ではメリットを出し続けたい。

◆日本音響学会九州支部

外国人参加者特別措置を止める（日本人と同じにする）

◆照明学会

1. 外国人特別扱いを一切止める（国際セッション参加でも非会員は一律 8,000 円）

◆情報処理学会

外国人・日本人とも、通常セッションの参加費（会員 4000 円・非会員 8000 円）と同じにする。

理由：外国人が日本の学会会員にならなくても IEEE の会員になるという選択肢があるため。

◆電子情報通信学会九州支部

1. 外国人特別扱いを一切止める（国際セッション参加でも非会員は一律 8,000 円）

- 現在主催学会に IEEE も加わり会員資格が国内学会のみと限らない。
- 海外籍の参加者か否かの確認は自己申告および講演者名からの推察のみであり、海外籍である証明を取るの難しい
- 国際セッションの参加者も増え、また一般講演を行う海外籍参加者おり、一般講演と差別化する理由はないと思われる。

連合大会活性化について

平成 30 年 9 月 27 日に開催された連合大会幹事会にて、今後の連合大会の展望や活性化などについて、協議が行われた結果、施策の 1 つとして企画セッションの設立が検討された。

1 <新しい研究との出会い>

複数学会の連合大会である利点を活かすために、学会横断セッションの実現と発表部門の見直し

1.1 2タイプの企画セッションを用意してはどうか

- 発表者側から提案するタイプ（IoTセッション、SCOPEセッションのようなタイプ）。座長や発表者は提案者が用意する。その上で一般から発表を募集してもよい。
- 公募タイプの企画セッションについては東北支部連合大会が実施している。
- 通信学会からの申し出により、九州総通局と連携した企画セッション（SCOPEなどの施策の実施報告、および周知）は次年度から開催予定とする（参加費は徴収）⇒最終的な決定は第3回大会委員会にて
- 連合大会から提案するタイプ
複数の学会が関係するテーマを決めて、それをスペシャルセッションとして用意する。大会委員会で、各学会からある程度関係する発表が出せそうなテーマかどうかを審議する。何人かに招待講演（「招待講演」とするだけで講演参加費等は一般と同じ）を依頼しその上で一般から発表を募集する。

1.2 発表部門の決定方法の変更

現在、発表者が発表部門を選択している。発表部門と学会のリンクが強い分野もある。そこで発表者には、発表申し込み時に「キーワード」を入力させ、そのキーワードに基づいて、ソフトウェアにより発表部門を自動的に振り分け、その結果をプログラム編集委員が手直しするのはどうか。

- セッションそのものの数を減らしてはどうかという意見がだされているため、見直しも検討してはどうか

2 <学会との出会い>

学生の発表の敷居をより低くする

- 学生のポスターセッションを用意し、計画段階の研究、行き詰った研究なども遠慮なく持ち込めて、自由に議論・相談できるような場を提供する。
- ポスター来場者に企業展示にも立ち寄ってもらえるよう、企業展示とポスターセッションを同じ会場で行う。（⇒できるだけ企業展示会場は総合受付付近に配置するようにしているが、会場的な問題で配置が難しい場合もある）
- 盛り上がるようスタンプラリーを用意して抽選で賞品贈呈してはどうか（懇親会費無料とか？）

3 <地域の企業との出会い>

- 企業が連合大会に参加するメリットをいかに提供できるか
- 大手企業の研究部門は九州から引き上げていて、企業からの“研究発表”は難しくなりつつある。
- 一方で、ベンチャーや中小企業は大学との連携に関心がある
- 1社単体では難しくても、コンソーシアムなら継続的に関わることはできるのではないかと（産学連携コンソーシアムを中心とした企画セッションなど）
- 福岡県にはさまざまな産学連携コンソーシアムがあるので、開催地福岡のタイミングで何らかの形を試してみるのはいかがでしょうか